

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか</b>							
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神, 教育理念, 使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	本センターは2003年4月に、本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・資料利用等を目的として設置された。『明治大学百年史』(全4巻, 1886-1994年) 編纂によって蓄積された資料の活用と、さらなる調査・研究・アーカイヴズ化の推進を目指し、各種事業を展開している。 学部間共通総合講座,あるいはリバティアカデミー大学史講座・大学史関係書籍等の刊行を通して、学生に対して本学の歩みや理念についての理解を深め、同時に本学への愛着を培っていくこと、また、父母・校友・役員・教職員や一般社会人に対しても本学への関心・知識を広げていくことを目的とする。センターの各種事業を通して、本学の建学の精神である「権利自由」「独立自治」を体現し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする【1-53-1, 1-53-2】。 ①理念・目的の明確化 センター運営委員会と各研究会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか討議している【1-53-3:8-9頁】。					1-53-1 「目標」明治大学史資料センターホームページ <a href="http://www.meiji.ac.jp/history/target/keyword.html">http://www.meiji.ac.jp/history/target/keyword.html</a> 1-53-2 「明治大学史資料センター案内」(リーフレット) 1-53-3 「ニュースレター明治大学史」No. 11, 2014年	
b ●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	②実績や資源から見た理念・目的の適切性 校友についての情報や本学の歴史など、本学にまつわる様々な歴史情報の集積や公開を通して、「権利自由」「独立自治」に象徴される建学の精神を学内外に汎く発信し、もって本学の存在意義を高める役割を担った。						
<b>(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか</b>							
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	① 構成員に対する周知方法と有効性 センターに設置した「創立者研究会」の成果を活かし、創立者の岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操を紹介するはじめての公式評伝『私学の誕生—明治大学の三人の創立者』【1-53-4】を2015年3月刊行し、創立者の理念と、私学としての本学の建学精神を内外に発信している。また新任職員研修等の場で教職員に対して大学史関連講義を行うとともに、4キャンパスで展開する学部間共通総合講座「明治大学の歴史」において、本学の建学の精神等を学生に対して講義し、もって建学精神の構成員への浸透を図っている。ほか、ホームページ、「ニュースレター 明治大学史」(年1回発行)【1-53-3】、「大学史紀要」【1-53-5】、「大学史活動」(年1回発行)【1-53-6】、「大学史の散歩道」(学内誌「M Style」連載【1-53-7:10頁】)の刊行を通して本学におけるセンターの理念・目的等を周知している。 ②社会への公表方法 ①と同じく、ホームページ及び、『ニュースレター』、『大学史紀要』、『大学史活動』を通して広く学内外にセンターの存在とその役割について知らせている。	・本学の歴史情報集積と学内外への発信拠点のひとつとして、校友・教職員・一般社会人に対し、本学の建学精神に関する各種情報収集・提供を行い、創立以来先人が遺してきた成果を後世に伝え、将来への糧として活用している。	・学生・教職員・父母・一般などより幅広い層に大学の歴史や創立者への関心を喚起するため、従前の『明治大学小史』ではカバーしきれない大学の最新情報を反映したコンパクトな大学の歴史を取り扱った書籍及び『大学史の散歩道』をベースとした新たな一般向けの読み物を2016年度に刊行することを計画している。			1-53-4 明治大学史資料センター編『私学の誕生 明治大学の三人の創立者』創英社/三省堂、2015年 1-53-5 『大学史紀要第20号 アジア留学生研究II』2015年 1-53-6 『大学史活動第36集』, 2015年 1-53-7 山泉進「大学史の散歩道 vol.143 三人の創立者と明治大学の誕生」『M Style』No. 73所収, 2015年4月20日 <a href="http://www.meiji.ac.jp/koho/m-style/6t5h7p00000ig5j8-att/M-STYLE_2015_vol173.pdf">http://www.meiji.ac.jp/koho/m-style/6t5h7p00000ig5j8-att/M-STYLE_2015_vol173.pdf</a>	
<b>(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>							
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。【約300字】	定期的に開催されるセンター運営委員会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか討議している。						

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	Alt+Enterで簡条書きに
(I-2) 理念・目的に基づいた特色ある取り組み							
	<p>センターでは、明治大学の歴史と、大学が輩出した〈個〉の研究・紹介を通して、個性ある大学としての本学の魅力を高めることに努めている。その一環として本学の建学精神を体現する個性ある校友の発掘紹介を行っている。2015年現在、校友及び関係者に関する研究会として、①創業者研究会、②人権派弁護士研究会（第2期）、③アジア留学生研究会、④財界人研究会、⑤昭和歌謡史研究会（第2期）を設置し、各種調査研究と成果物の発行を実施している。</p> <p>また2015年度から、これらの研究を進める中で収集された貴重資料を公開するため⑥特別資料研究会を設置し、資料の開示請求がなされた場合、同研究会において資料の精査をした上で、資料の公開を図ることとした。</p> <p>その他、2014年度に実施した関係事業としては、①作詞家・作家阿久悠氏の業績を顕彰する2011年度に設置された明治大学阿久悠記念館の運営を行うとともに、②元内閣総理大臣三木武夫氏関係資料の公開を開始した。また③2013年科学研究費助成金基盤（C）の採択を受け4大学アーカイブズの資料のデータベース化作業と調査研究を進めている（2015年度まで）。さらに④鯖江市の矢代操旧宅地に説明板を設置した。</p>	<p>・センター設置の各研究会における成果は、『木村礎研究 戦後歴史学への挑戦』（2014年8月刊）【1-53-8】、『私学の誕生—明治大学の三人の創立者』【1-53-4】、『大学史紀要 第19号 阿久悠研究』（2014年12月刊）【1-53-9】『同第20号 明治大学 アジア留学生研究Ⅱ』（2015年3月刊）【1-53-4】である。</p> <p>また特別資料研究会を設置し、従来非公開であった資料の公開を図ることができた。</p>		<p>・2015年度も、各研究会を実施し、研究成果の内外への公開を図る。</p>			<p>1-53-8 明治大学史資料センター編『木村礎研究 戦後歴史学への挑戦』日本経済評論社、2014年 1-53-9 『大学史紀要 第19号 阿久悠研究』2014年</p>

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか</b>							
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。  ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	大学史資料センター、明治大学阿久悠記念館 本法人並びに校史に係る資料の収集、調査及び公開をもって本学の発展に資することを目的として設置している。また、日本を代表する作詞家・作家で本学卒業生である故阿久悠氏の業績をたたえ、その遺産を次世代に継承していくために2011年度に設置された「明治大学阿久悠記念館」の管理運営を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学史について知識を有する運営委員会と研究プロジェクトが一体となって研究事業を進めるため、状況に迅速に対応ができる。</li> <li>・一般からの問合せに対応しつつ、他大学類縁機関をリードする存在として、他大学類縁機関からの見学や問合せ等にも対応している。</li> <li>・阿久悠記念館の入場者数は2014年度は15,266名であった。2011年の開館以降の来場者数は61,000名を越え、堅調である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会・研究会体制の構成が、全学的なものになっていないこと、150周年記念にむけての若手研究者の補充が必要なことである。</li> <li>・阿久悠記念館の設置運営に関する規定整備がなされていないことである。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員の増員を2016年度に行うことを検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿久悠記念館の設置運営に関する規定の策定を図る。</li> </ul>	2-53-1 明治大学史資料センター規程 第2条 2-53-2「組織」明治大学史資料センターホームページ <a href="http://www.meiji.ac.jp/history/constructio/organization.html">http://www.meiji.ac.jp/history/constructio/organization.html</a>
<b>(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか</b>							
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。  ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	センター運営委員会のなかで定期的に検討会を実施している。センターは私立大学における大学史資料取り扱い機関としては先駆的に設置された。日本の大学における類縁機関の連合体である全国大学史資料協議会ではその東日本部会において幹事校（事務局2014年度から）をつとめている。						

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか</b>						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	本機関の社会との連携・協力に関する方針は、本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・利用活用を広く社会に対して行い、各種の社会連携・貢献を図ることである。 ①産・学・官等の連携の方針の明示 国内外を問わず、本学ゆかりの企業・学校・官公庁と連携し、地域・大学間交流の振興を図ることを方針として「ニュースレター」等で明示している。 ②地域社会・国際社会への協力方針の明示 国内外を問わず、本学ゆかりの地域と協力し、講演・展示会、シンポジウム等を通して交流を図り、地域・大学間交流の振興を図ることを方針として明示している【8-53-1】。					8-53-1「明治大学史資料センター案内」(リーフレット)
<b>(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか</b>						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	①教育研究の成果をもとにした社会へのサービス活動 閲覧希望者に対して研究資源の公開として所蔵する大学史資料のレファレンスサービスを実施している。 また、社会に開かれた大学として、展示・閲覧に係る大学施設を開放し地域連携等に貢献している。 リバティアカデミーにおいては社会人向け大学史講座を開講している。2014年度は「阿久悠論—昭和歌謡の巨星」(全5回)を開催した【8-53-2】。また10月19日に第17回ホームカミングデーオープン講座として「人ありて明治!!!」を開講した【8-53-3】。2015年度は中野キャンパスにおいて「人ありて明治!!!」(全5回)を開講中である。 アジア留学生研究会は国際シンポジウム「近代アジアと『留学経験』—第二次大戦前の留学を中心に」を開催し、約50名が参加した(アジア教育史学会との共催 2014年8月9日)【8-53-4:10-29頁】。 ・機関誌として「大学史紀要」を刊行し、編集委員会による適切な査読体制のもと、その成果の発信を行っている。 ②学外組織との連携協力による教育研究の推進 創立者出身地域の歴史関係機関、校友会等関係者と随時的な交流を図り、連携して調査研究を実施している。 その他2014年度におけるセンター調査に関連して受けた主要な連携・協力は次の通りである。 ・人権派弁護士研究—岩手県盛岡市、岩手県二戸郡一戸町の関係者の協力を受けて調査にあたった。 ・アジア留学生研究—校友会大韓民国支部、同台湾支部及び関係歴史資料機関と連携して調査研究にあたった。 ・『私学の誕生—明治大学の三人の創立者』【8-53-5】において創立者出身3地域の校友会と連携し、コラム原稿の執筆協力を受けた。 ・創立者矢代操旧宅地整備事業を実施し、同地に説明板を設置した。 ・明治大学・鯖江市連携事業「矢代操と明治大学」に協力し、福井県鯖江市において同名の講演会及び展示会の開催に連携してあたった【8-53-6】。 ・鯖江市に所在する創立者矢代操旧宅地整備事業を実施し、表示板を設置した。	・社会連携事務室等、他部署と連携しながら今後同様のイベントを実施するにあたってのノウハウが蓄積されつつある。		・人権派弁護士研究会(第2期)の成果を活かし、シンポジウム及び記念講演等からなる「布施辰治! 甦れ。—アジアの人権とコモンズ」(大学史資料センター 明治大学法学部 明治大学大学院法学研究科主催)を6月27日に開催する。 ・9月12日、他部署とも連携しながら鳥取敬愛高校で創立者岸本辰雄に関する講演会を実施する。	8-53-2「14120001 阿久悠論—昭和歌謡の巨星—講義とオペラONステージ」 <a href="https://academy.meiji.jp/course/detail/16218-53-3">https://academy.meiji.jp/course/detail/16218-53-3</a> 「14270022 第17回ホームカミングデー公開講座「人ありて明治!!!」」 <a href="https://academy.meiji.jp/course/detail/2189/8-53-4">https://academy.meiji.jp/course/detail/2189/8-53-4</a> 『大学史紀要第20号 アジア留学生研究Ⅱ』2015年 8-53-5 明治大学史資料センター編『私学の誕生 明治大学の三人の創立者』創英社/三省堂、2015年 8-53-6 明治大学・鯖江市連携事業「矢代操と明治大学」講演会を実施しました <a href="http://www.meiji.ac.jp/social/liberty/information/6t5h7p00000i349h.html">http://www.meiji.ac.jp/social/liberty/information/6t5h7p00000i349h.html</a>	

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第9章 管理運営・財務

### 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。</b>						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	本センターの管理運営方針はセンターの目的や事業内容に見合った事務組織体制の拡充を図るため、センターの業務に専従してあたる事務部署を設置し、もって事業の管理運営の円滑化を図ることである。 法人組織の下に置かれたセンターとして、理事長—センター所長—運営委員—事務組織の意思決定プロセスが明確化されている。明治大学史資料センター規程第7条において、次に掲げる事項について審議することが明文化されている。 1) センターの事業計画に関する重要事項 2) センターの管理・運営に関する重要事項 3) 校史の調査及び研究に関する事項 4) その他運営委員会が必要と認めた事項					
<b>(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか</b>						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	①関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用 明治大学史資料センター規程(2002年度規程第10号)【9-53-1】及び明治大学史資料センター利用要綱(2006年度例規第14号)【9-53-2】に基づき管理運営を実施している。 ②センター長等の権限と責任の明確化 センター所長は、明治大学史資料センター規程第5条第1項においてセンターの業務を総括し、センターを代表すると定められている。 また、センター副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行すると定められている(同規程第6条)。 ③センター長等の選考方法の適切性 センター所長は、専任教員である運営委員の中から、運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命するとされている(同規程第5条第2項)。					9-53-1 明治大学史資料センター規程(2002年度規程第10号) 9-53-2 明治大学史資料センター利用要綱(2006年度例規第14号)
<b>(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか</b>						
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか	①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 明治大学自己点検・報告書として、大学ホームページで公開している。 ②教育研究活動のデータベース化の推進 大学史資料センターホームページ( <a href="http://www.meiji.ac.jp/history/">http://www.meiji.ac.jp/history/</a> )において公開している。 ③学外者の意見の反映 検討中					
<b>(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことによって、改善につながっているか。	人事考課に基づいて適切な業務評価と処遇改善を行う。					

# 2014年度大学史資料センター 自己点検・評価報告書

## 第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p><b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果しているか</b></p>						
<p>a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】</p>	<p>本センターは本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・利用等を目的として設置された。この目的に基づいてセンターの事業が実施されているかを検証するため、運営委員会、各研究会において日常的に自己点検・評価を実施している。</p> <p>①評価に関する委員会等の設置 (名称, メンバー, 年間開催回数) 【10-53-1:163-169頁】</p> <p>②評価報告書等の作成, 公表 ・大学史資料センター運営委員会・研究会等報告【10-53-1 163-169頁】にて概要を紹介している。 また, 本センターの自己点検・評価は明治大学自己点検・報告書として, 大学ホームページで公開している。</p>					<p>10-53-1 『大学史紀要第20号 アジア留学生研究Ⅱ』2015年</p>
<p><b>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</b></p>						
<p>a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】</p>	<p>①内部質保証の方針と手続の明確化 大学史資料センター運営委員会において, 内部質保証に関するチェックを行う。</p> <p>②内部質保証を掌る組織の整備 大学史資料センター運営委員会において, 内部質保証に関するチェックを行っている。</p> <p>③自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムの確立 検討中</p>	<p>・大学史資料センターの下に編集委員会を設置し, 「大学史紀要」への発表論文について, 適切な査読体制を整え, 成果物の内部質保証を行っている 【10-53-2:173頁】。</p>				<p>10-53-2 『大学史紀要第20号 アジア留学生研究Ⅱ』2015年</p>
<p><b>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</b></p>						
<p>a ●PDCAサイクルを回すための, Check (点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫  &lt;参考:以下の事項に関して, 関連するものについて記述する&gt; ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 明治大学自己点検・報告書として, 大学ホームページで公開している。</p> <p>②教育研究活動のデータベース化の推進 大学史資料センターホームページ (<a href="http://www.meiji.ac.jp/history/">http://www.meiji.ac.jp/history/</a>) において公開している。</p> <p>③学外者の意見の反映 検討中</p> <p>④文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項の対応 大学基準協会による認証評価の際の「分科会報告書案」に示されたアーカイヴズ機能の強化につとめる。</p>					

## 8章根拠資料

(講座受講  
生数)

年度	年間 講座 数	募集人員	参加者	平均受講 者数
2006年	1	30	11	10
2007年	1	30	13	15
2008年	1	30	17	15
2009年	1	30	11	9
2010年	開講せず*			
2011年	開講せず*			
2012年	1	200	200 (概 数)	
2013年	1	300	150 (概数)	
2014年	2	500	400 (概数)	

## 10章根拠資料

委員会等 の名称	主なメン バー, 人 数	開催日
大学史資 料セン ター運営 委員会	大学史資 料セン ター所 長, 同副 所長, 同 委員 計8名	2014年 4月23日
		同 5月28日
		同 7月23日
		同 9月24日
		同 10月22日
		2015年 1月28日
		同 3月27日
		同 4月22日
同 5月27日		